

帰郷

松下 幹生

軒に吊るした 干し柿が
夕陽に朱（あか）く 染まる頃と
ふと 懐かしく思い立ち
里ごころに 背中を押され
懐かしい 風と香りに 包まれて
ひとり降り立つ ああ ふるさとの駅

実家（さと）の縁側 陽に当たり
どうもろこしを 頬張れば
ふと 幼き日の 思い出が
ヨッちゃん達も どうしているか
懐かしい 友達の事 気にかかる
のんびり過ごす ああ ふるさとの家

川に蛍が 飛び交って
郷（さと）の一日 暮れて行く
ふと 鴨居の上を 見上げれば
じっちゃんの写真（かお） 優しく笑う
懐かしい 空気に触れて 満たされた
明日には帰る ああ 俺達の街